MONTHLY
かわせみ通信
5月号
2025年5月
Vol.189
発行所 株式会社東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE
本社／三重県四日市市午起2丁目4番18号（〒510-0023）
TEL.059-332-5122㈹ https://www.tokai-techno.co.jp

EV“普及の溝(キャズム)”を越えるには～オーナーが語る、目に見えない壁～

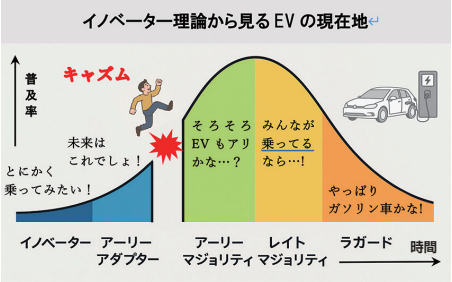
約3年前、「EV普及の鍵はアーリーアダプター層の取り込みにある」とこのコラムで述べた。それからEVに乗り換えて3年。自宅充電を中心に通勤や遠出に使ってきた日常を通し、改めて現状を考えてみたい。

日本自動車販売協会連合会などによると、2024年のEV販売台数は前年比32.5%減の5万9736台。4年ぶりに減少した。まさに今、EVは“普及の溝”=キャズムに直面している。アーリーアダプター層への浸透が一段落し、次の層への広がりが鈍っているのではないか。

EV乗りとして「なぜ伸びないのか?」という疑問は自然と湧く。充電インフラや航続距離、価格などの物理的課題は依然としてある。最初は「往復1000kmの遠出は大丈夫かな?」と不安もあったが、一度経験すると、充電の流れがつかめ、気にならなくなった。特にここ数年、高出力の急速充電器が増え、高速道路でも着実に、そして確実に増えていることを肌で感じる。

価格面では、4月から補助金が最大90万円に引き上げられたが、それでも「これだ!」と思える車が見つからないなど、購入へのハードルは残る。ただ、それ以上に強く感じるのが、“目に見えない壁”の存在だ。「冬場はどう?」「面倒そう」「なんとなく不安」――こうした漠然とした“心理的ハードル”が、選択をためらわせているのではないか。たしかに冬は航続距離が下がるが、日常使いには支障がない。

オーナーとして実感するのは、そうした不安の多くは、実際に乗ってみればそれほど気にならないということだ。それどころか、EVならではの静けさや次元の違う加速、ガソリン車よりはるかに安価な充電コストなど、“驚き”のほうがずっと大きい。とはいえ、“乗る前の壁”は想像以上に高い。「EV?自分にはまだ…」――そう感じる心理こそが、普及を足止めしている最大の要因かもしれない。



そのような中でも、こうした状況は少しずつ変わっていくだろう。日本の自動車メーカーや政府は2030年に向け、車種の拡充やバッテリー進化、充電設備の倍増などを進めている。きっと数年後には、EVは今よりずっと身近な存在になっているはずだ。

このコラムは、私自身の体験をもとに実績や安心を重視するアーリーマジョリティ層に向けてつづった。「車に何を求めるか」は人それぞれ。だからこそ、選択肢が増えることは歓迎すべき変化だ。脱炭素社会に向かう中で、EVが“特別ではない選択肢”として自然に選ばれる日を、楽しみに待ちたい。

ココに技あり!

社内に排ガス測定教育設備を新設

当社では長年にわたり、排ガス測定の技術教育を、現場でのOJTを通じて行ってきました。しかし、OJTが可能な現場への適切な配置が難しく、現場作業時間の制限、教育担当者（管理者）の同行負担など、さまざまな問題がありました。これらを解消するため、社内に現場と同じ条件を再現した排ガス測定用の教育設備を新たに設置しました。配管中に測定口を設置したものですが、時間や場所に縛られず、反復練習が可能となり、教育者による計画的かつ効果的な指導が実現しました。今後も安定した技術継承と、測定品質のさらなる向上に取り組んでまいります。

東海テクノからのお知らせ

「e-計量、発行すればするほど、森が拡がる!」Present Tree　2024年分の植樹完了

当社では電子（PDF）による報告書の発行・納品サービス（e-計量）を推奨しており、2024年のe-計量の登録社数は129社でした。1社を1本と換算し、129本の苗木を5月11日に山梨県笛吹市でのイベントで植樹してきました。2023年は71本だったため大幅な増加です。ご賛同をありがとうございました。e-計量が広がることは脱炭素社会への貢献にもなります。e-計量への切替えをお考えのご担当者様は当社営業員までぜひご相談ください。

Present Treeについては下記をご参照ください。
https://presenttree.jp/abouts/

社員プチコラム

菊川　華未（環境事業本部　ラボグループ）

私はPerfumeが好きで、よくライブに行っています。これまでに5回参加しており、そのうちの1回は彼女たちの出身地・広島まで車で行きました。ダンスはかっこよくて可愛く、何度見ても飽きません。また、ライブの演出も圧巻なので、ぜひ一度参加してみてほしいなと思います。大阪万博にも関連パビリオンがあるそうなので行ってみようと思っています。ちなみに私はメンバーの3人のうち、髪の短い「のっち」が一番好きです。

編集後記

今回の植樹は、企業や地域の方々など、多くの人が参加し、総勢160人で1,000本の苗木を植えるという大規模なイベントへの参加となりました。当日は天候にも恵まれ、気持ちよく晴れ渡る中、当社から参加した4人で植樹に汗を流しました。私たちが植えた木々が大きく育つことを願い、将来見に行ける日を楽しみにしています。（みっちー）